

## 巻頭挨拶

加藤 直人<sup>1)</sup>

教員養成には二つの大きな柱がある。ひとつはどのような教員を養成するのかという「大学の教育理念」に関すること、もうひとつは養成した学生が実際に教員として活躍できるように支援する「就職」に関することである。

まず、本学の教員養成に係わる教育理念についてであるが、周知のとおり、「新学習指導要領」の基本的な考え方は、現行の学習指導要領の理念を引き継ぎ、「生きる力」をはぐくむことにある。この「生きる力」とは、文部科学省の説明によると、「①基礎・基本を確実に身につけ、いかに社会が変化しようとする課題を見つけ、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力。②自らを律しつつ他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性。③たくましく生きるための健康や体力、などを指すとされている。これをよく見ると、とくに①などは、まさに日本大学の建学の精神と共通するものがある。

日本大学の建学の精神、すなわち「日本国憲法をはじめとする重要で根本的なことを定めた決まり事に従いつつ、自ら学び、自ら物事に積極的に取り組んで、自分で生きる道を切り拓いていく精神を養って、その精神のもと、将来の文化の進展をはかり、世界の平和と人類の福祉とに寄与する人材を育成することを目的とする」という考え方は、新学習指導要領の理念とまさに共通している。現在、日本大学ではこの教育理念を「自主創造」という言葉で表し、大学だけでなく関係する付属高等学校、中学校等の教職員、生徒においても、もっとも重要な教育目標として周知徹底をはかっている。ただ、文理学部を含め、教職課程を

有する日本大学の他の学部においても、その教育目標は、かならずしも徹底されていないのが現状である。これは「自校教育」の問題とも関わってくるところであるが、明確な教育理念のない教員養成は、単に教員免許取得のための専門学校に堕してしまうことにもなりかねないと考えている。

本学部における教員志望の学生の多くは、小・中学校等でさまざまな教職ボランティア活動を行っている。教職ボランティアは、学生自身が教員としての能力を高める意味でも大切な機会であると認識しているが、ただ目的意識もなく与えられた業務を遂行するだけでは、せっかく与えられたチャンスを十分に活かすことができないと思われる。この教職ボランティアを体系的に教育活動のなかに位置づけ、有効に機能させるために、本学部では「教職インターンシップ制度」をも実施している。具体的には学生をインターンとして受け入れていただいた学校と共同し、本学の教育活動の一環として、先生方のご援助と本学教員の指導のもと、将来教員を志す学生に対して支援をしている。

このような理念の下、単に教職に就くだけでなく、「力のある」教員の養成・輩出のため、文理学部では「教職支援センター」を設置している。法学部であれば司法科研究室、司法書士研究室があるように、将来教員を志望する学生の支援のために、その「支援センター」が開設された。これは、単に現役学生だけでなく、過年度卒業生で教職を目指す学生にも開放・支援し、きわめて大きな実績をあげている。

今回、その教職支援センターにおいて、活動報告ならびに教育実践事例を集積した『教師教育と

1) 日本大学文理学部長

実践知』を発刊することになった。日本有数の中等学校教員養成の実績とノウハウがここに展開す

ることになると思われる。今後ともご支援をお願いする次第である。